



三河のつぶやき

新年度に入り、地域医療連携室がやっと組織として立ち上がりました。スタッフやオブザーバーを含めると医師4人、看護師4人、相談員2人、事務6人の大所帯です。ほとんどは兼務、あるいは等質にご理解ありご協力いただいている方ですが、院内外でその存在も知られるようになり、日々手ごたえを感じています。少しずつ粘り強く、南房総の皆様とのつながりを広げていけるよう努力してまいります。今後とも宜しくお願い致します。



地域医療連携室 室長 三河 貴裕

今回から「マイブーム」新コーナーを計画致しました。おたより編集者として第1回目を担当いたしました。皆さんのマイブームをお聞かせいただき、楽しいコーナーにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

「マイブームはボディマッサージです」

イオン内「らくーね」は強めのアプローチとベシア内「とるとる」は癒しの一時、1回40分位、毎週土曜の午後を楽しみに今年で3年目となります。自宅では思い出した時にストレッチするものの「慢性こり症」は頑固です。直接皮膚に求心的に指圧して、血液の循環をよくすることで「こりをほぐして」もらっているのはもちろんですが、「生きる活力と人の温もりを求めて」いるのかもしれない。自分への唯一のご褒美であり、至福の時間となっています。仕事をしている間はお世話になると思います。

唐鎌 房子

TOPICS

安房地域がん看護勉強会のご案内

TOPICS

昨年度に引き続き、安房地域医療センターを会場に「がん看護勉強会」を開催いたします。単発でのご参加も可能です。知識習得のみでなく、勉強会を通して顔の見える関係作りができればよいと考えております。ご興味のある方は是非ご参加下さい。*詳細・お申込は同封の資料をご覧ください

- 第1回: 6月15日(金) **疼痛マネジメント**: 痛みを緩和する為に用いる薬物療法・ケアについて理解する
- 第2回: 7月27日(金) **スピリチュアルケア**: ケアする私たち自身をみつめる
- 第3回: 8月24日(金) **症状マネジメント**: 呼吸困難、嘔気、嘔吐に焦点を当て、薬物療法・ケアを理解する
- 第4回: 9月21日(金) **家族ケア**: 看取りを含めた意思決定を支える上で医療者の視点と関わり方について学ぶ
- 第5回: 10月19日(金) **浮腫ケア**: リラクゼーションを体験する
- 第6回: 11月30日(金) **化学療法看護**: 薬剤の影響を知り早期対応につなげる
- 第7回: 12月21日(金) **在宅ケア**: 在宅での緩和ケアの実際を学ぶ

* 以前にお送りしたご案内・申込書をお持ちの方は日程の変更がございますのでご確認ください

「慢性腎不全 - CRF - 」から「慢性腎臓病 - CKD - 」へ

腎臓高血圧内科 部長 小原まみ子

地域の先生方には大変お世話になっております。腎臓高血圧内科の小原まみ子です。日頃より、たくさんの患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。

「慢性腎臓病 - Chronic Kidney Disease: CKD - 」, 世界的なキャンペーンが始まったのが2006年。テレビなどで報道されることもあり、最近になってようやく耳になじんできたような印象があります。日本では1330万人、実に、成人人口の約13%がCKD患者であると推定されています。「慢性腎不全 - Chronic Renal Failure: CRF - 」から、「慢性腎臓病 - CKD - 」へ視点の変換、これはまさに、地域の医療連携がないと活きることでできないパラダイムシフトといえるようです。

「慢性腎臓病 - CKD - 」という言葉、国際的にスタンダードとして使っていくことになった理由は、主に2つあったそうです。1つは、進行するまで自覚症状もあまりない腎機能障害ですが、それが心血管疾患の重要な危険因子であり、すでに腎機能低下してしまった「腎不全」段階からでなく、腎機能がまだ保たれている「腎臓病」早期の段階から、血圧コントロールや食事療法などで予防あるいは進行抑制することが重要であると判明した点。2つめは、となると、腎臓が悪いと本人は気づかないような「実はCKD」の方も腎臓病の重要性を知って、医師にかかってくるのが、心血管疾患や生命の予後のカギとなるわけですが、「腎不全」「Renal」「Failure」は、医学用語に慣れない方々にとって、わかりにくく難しく感じられる言葉であったこと。

房総では、地域の先生方のおかげで、早期の段階から、血圧コントロールし、生活習慣の改善ポイント;塩分・飽和脂肪酸を控えた食事、肥満の改善、適度な運動、適量までの飲酒、禁煙などを意識されてくる患者さんが少しずつ増えてきているように思います。ありがとうございます。日々の診療をなさるうえで、診断や、食事指導を含め治療などで迷われることなどがございましたら、今後とも、ご紹介いただけましたら幸いです。

地域連携について



秋場医院 秋場 齋 院長

いすみ市と長生郡の境(一宮町東東浪見)で内科、小児科を開業している秋場です。私の場合は大学からの派遣で1976年11月から1982年3月まで常勤として勤務し、以後現在まで総合診療科の非常勤医師として勤務しているため、他の開業の先生より亀田総合病院についてよく知っていると思いますし、知り合いの先生方もいるので、患者さんの紹介は比較的恵まれていると思っております。大学時代は、循環器(虚血性心疾患)が主体でしたが、亀田勤務中に多種の疾患を診ることが出来、何でも内科の気持ちで診療しております。亀田クリニックで診療しているため、亀田紹介希望で来院される患者さんも結構います。何科に紹介しようか迷う時には総合診療科の先生にご迷惑をお掛けしております。

ただ、小さな診療所ですので、人的な面でがんの在宅診療に充分ご協力ができないので心苦しく思っております。一般の往診はしているのですが、医師会の仕事や総務省の仕事、産業医(現在3ヶ所)、身障者施設の嘱託医等十分な時間が取れないのが悩みです。

しかし、亀田総合病院が控えているということで休日当番の時などは、ご無理を言ってお願いする事も多々あり、感謝しております。これからも微々たる協力しかできないと思いますが、ご指導宜しくお願い致します。